

# は じ め に

現在、私たちの日常生活の中で、障害のある人や高齢者に対する不利な扱い、同和問題に関する差別発言やインターネット上での書き込み、外国人への暴力や入居拒否、東日本大震災における風評被害など、誤った考えや思い込み、偏見などから、他者を排除したり差別したりする事案が依然として発生しています。

また、いじめや虐待、孤立死なども大きな社会問題になっていますが、その背景には、人と人とのつながりの希薄化や自分と異質な存在を排除するという意識があるのではないのでしょうか。

私たちが抱くこれらの「意識」は、様々な人権課題に共通した、いわば人権の根幹に関わる部分です。

だれもが、差別のない社会の必要性については理解しています。しかしその一方で、自分や身近な人に関わる出来事には過敏である反面、遠い存在に対しては他人事のように感じていたりします。日常生活における自らの言動を振り返り、自らの奥に潜む誤った考えや思い込みなどに気づくことが必要です。そして、その気づきとともに、他人事を自分のこととして受け止められるようになること、また具体的な行動につなげていくことが何よりも重要です。

この作品をできるだけ多くの方にご覧いただき、自らの思い込みや偏見に気づくとともに、他者の思いを自分自身のこととして捉え、認め合い関わり合っていくことの大切さを実感することによって、人と人とのつながりや絆<sup>きずな</sup>をより一層深めていく一助になることを願っています。

平成25年2月

兵庫県・公益財団法人兵庫県人権啓発協会

# 目 次

## はじめに

1 制作のねらい .....	1
2 あらすじ .....	1
3 登場人物とポイントとなる台詞 <sup>せりふ</sup> .....	2
4 活用にあたって .....	4
◇ 学習展開例 .....	6
◇ ワークシート .....	7
5 参考資料等	
(1) 私たちの「意識」についてⅠ～Ⅲ .....	9
(2) 気づくことの大切さ .....	13
(3) 心から理解すること .....	14
(4) 変わる勇気 .....	15
(5) 相談窓口 .....	15



# 1 制作のねらい

「意識と人権」 ～ あなたの思いを わたしのものに ～

高齢者や外国人に対する排除、不利益な扱い、同和問題や原発事故に伴う風評被害の問題、これら多くの人権課題に共通する根っこの部分は、私たちの誤った考え方や思い込み、偏見という「意識」です。

誰もが他者の排除や差別がよくないことは理解しています。その一方で、私たちは自分や身近な人に関わる出来事には敏感に反応するけれど、それ以外のことには他人事のように感じたりします。また、私たちは、自分や家族の生活を守るために、あるいは誤解や偏見に気づかずに、他者を排除したり、傷つけたりしがちです。

このドラマの主人公・弓枝もそんな一人です。弓枝の心を揺さぶったのは、息子である輝の友だちを思<sup>てる</sup>う純粋な気持ちと、同じ集合住宅に他国から引っ越してきた隣人です。

誤解や偏見に気づき人と深く向き合うこと、他者の気持ちを我がこととして思うこと。すべての人権課題を自分に関わることとして捉え、日常の行動につなげてもらうために、このドラマを制作しました。

# 2 あらすじ



向井弓枝は、パート先のスーパーで、高齢の客のおぼつかない行動に不快感を持つ。自宅のマンションのエレベーターでも、高齢の人や障害のある人に対してイライラを募らせる。弓枝は、面倒な人が多く住むこのマンションを出て、一戸建てや新築マンションに引っ越したいと、夫の勇<sup>いさむ</sup>に訴える。

弓枝の一人息子の輝は、空オタクだ。いつも空や雲のことを考えていて、友だちもいない。カメラを抱えた輝が自宅に帰ってくると、隣の部屋のドアが開き、見知らぬ外国人が引越をしている。外国人に対して偏見を持っている弓枝と勇の話聞き、輝も「みんな不法滞在なんだから送り返せばいい」と言う。



輝がマンションの屋上に行くと、同じ年頃の少年・龍太<sup>りゅうた</sup>が空にカメラを向けていた。空好きの二人は意気投合し、輝は龍太を家に招く。夕食をいただいたお礼にと、龍太の母の美里が、故郷福島<sup>ふくしま</sup>の草木染めの布を持って来る。最初は喜ぶ弓枝だったが、パート仲間の意見もあり、放射能への恐ろしさから布を捨ててしまう。そしてそれを、龍太がゴミ置き場で発見する。

学校からの帰り道、輝は、龍太が同級生たちから放射能のことでいじめられているのを見つけ加勢するが、二人とも投げ飛ばされる。同級生を非難する輝に、「お前も同じだろ」と龍太は叫び、「草木染めをなぜ捨てたのか」と詰め寄る。それを同じマンションの高齢者・千代子とタイ人・ロークが止める。帰宅した輝は弓枝を責め、家を飛び出す。



輝を探す弓枝と勇。輝は、隣のタイ人夫婦・ロークとノイのところ<sup>ところ</sup>にいた。夫婦はタイ料理店で働いていて、店を持ちたいので試食してほしいと申し出る。皆で食卓を囲みながら、ノイの思いを知った輝は、廊下の鉢植えを割ったことを謝り、勇も偏見を持っていたと告げる。握手をする勇とローク。その様子を笑顔で見つめる弓枝は、ふと台所の隅に、自分が捨ててしまった草木染めがあることに気づく。

ノイから、草木染めを譲ってもらった弓枝は、美里の家に。そして、自分の気持ちを伝えようとするが・・・。



### 3 登場人物とポイントとなる台詞



向井 弓枝  
(白石 美帆)  
輝の母

「どこも同じだよ。高齢社会なんだから」

「いいんじゃない？ それぞれ事情もあるだろうし、一人で住みたい人もいるんだろうから」

「変わるのかな」

「国際化だか何だかしらないけど、あいつらに精密機械なんて無理」

「違うんじゃない。そうやって敬遠するから、差別がなくならないんじゃないかな」

「あ～、もう、年寄りって面倒くさい！」

「目の不自由な人もいるでしょ。面倒を見てくれる家族いないのかな」

「どこに住んでるのか、どんな家に住んでるので人の評価って変わるでしょ」

「治安も悪くなりそう。何としてでも、ここから出て行かなくちゃ」

「差別するわけじゃないけど、同和地区はいまだにどうこういう人がいるわけだから、住まない方がいいんじゃないかな」

「何で普通にできないかな。友だちだってできるのに」

草木染めを捨てる



向井 勇  
(鳥羽 潤)  
輝の父

「私の実家の近くで作った草木染めなんです。福島のもの、ご迷惑じゃなければ…」

「迷惑だなんて、とんでもない！」



五十嵐 美里  
(湯浅 美和子)  
龍太の母

「その草木染めって、放射線量が高い地域で作られたんでしょ。影響あるんじゃないの」

「でも、その布から放射能が出るわけじゃないでしょ」

「やめときなよ、福島のは。一番大事なのは家族の健康よ」

「…そうよね」

「やめなさい！ 恥ずかしい！」

「それでなくても、『輝くんは変わってる』って言われてるのよ。どうして、普通にできないの」

「仕方がなかったのよ。万が一があっちゃいけないもの。あなたのためなの！」

「放射能のことはよくわからない。わからないから怖いよ」



パート仲間

「輝は知ろうとしたのね。原発事故のことも、放射能のことも。あの子は、あの子なりに龍太くんのこと、思ってたのね」

「それなのに、私、ちゃんと知ろうとしないで、人の言葉に流されて、怖い怖いと思ひこんで…」

ルアンの家で、

美里の家へ

「私もね、嬉しかったの。私にも、初めて友だちができるかなって。でも…無理よね」

「輝にも、言われました。『お母さんのしたことは恥ずかしい』って」

「どんなに謝っても、私がしたことは許してもらえないかもしれない。だけど、輝は龍太くんのことを大切に思っています」



与田 千代子  
友永 新一  
マンションの住人

「先日はありがとうございました」  
<与田の荷物を持つ>

「あ、ちょっと待って」  
<友永がエレベーターに乗るのを待つ>

「だいたい普通って何だよ。輝は輝だろ」

「そう。大事なのはここ（胸をさし）。どこに住んでるとかさ、そんなことで人の価値は決まらない」

「変わった子でもいいよね。こだわり過ぎてたのかな」

「うん。あの子は、人の気持と思いやれる。それで充分だ」



向井 輝  
(浦上 晟周)  
中学校1年生

「日本にいるアジア系って、みんな不法滞在なんだろう。だったら、送り返せばいい」

「キモ。邪魔だし」  
<ルアンの家を鉢植えを蹴る>

「『ほんとの空』っていうのは、高村光太郎って人が書いた詩の中の…」

「知ってる。…おれ、住んでたから」

「みんなでこっちに来ればよかったのに」

「みんな、福島が好きだから」

龍太との出会い

「おいおい、輝のやつ、また雲撮ってるぜ」  
「キモッ」

「来るな、来るな、放射能がうつるだろう」  
「汚染されるだろう」



同級生

龍太がいじめられているのを見る

「あいつら…何でこんなことすんだよ」

「おまえも、あいつらと同じだよ」

「え？」

「何で草木染め捨てたんだよ」



五十嵐 龍太  
(石川 大樹)  
福島から来た転校生

「普通じゃなくて悪かったね」  
「草木染め、何で捨てたんだよ！」

「じゃあ、調べたの？放射能のこと」

「は？わからないのに、捨てたの!？」

親子で試食

《勇》  
「ノイさん、日本はどうですか？住みやすいですか？」

「タイにもいろんな人がいる。日本にもいろんな人がいる。人は、それぞれ違いますね。面白いですね」

「日本はとっても便利です。でも…嫌なこともある。日本人は、タイ人よりえらいと思っている。悪口いう」

「ボクが鉢植えを倒しました。ごめんなさい」

「でも、話したらわかることがいっぱいある。日本もタイも、同じ空でつながってる」

《勇》  
「ごめんなさい。ボクも外国の人に対して偏見を持ってました」



ローク・ルアン  
ノイ・ルアン  
隣に住むタイ人

私、普通に  
ちをちゃん  
よね!!

「また、うちに来ない？」

「……」

「この空は、『ほんとの空』に続いている。いつか一緒に、見に行こう」

## 4 活用にあたって

### (1) 学習会の流れ

学習会を始める前に、計画や運営の面でどのようなことに注意していくとよいか、基本的な内容についてチェックしてみましょう。

#### 【準備】

- 学習のねらいが、はっきりしている。
- 学習内容は、学習者が知りたいことである。
- 実施時期や時間、場所は、学習者に無理のない設定である。
- 指導者や講師は、ねらいや内容の点から適任である。
- 学習方法は、講義や討論、ビデオ視聴など学習者や内容に合わせて決めている。
- 資料や機材等の確認ができています。
- 昨年度の改善点を活かしている。

効果的な学習とするための最大のポイントは、ねらいの明確さです。学習内容や講師選択は、しっかりとしたねらいがなければ成り立ちません。また、事前に講師と打合せを行い、担当者の考えを伝えておきます。話し合いをする場合、班分けへの配慮とともにテーマ設定が重要です。身近で、だれもが知りたいと感じているテーマを示すことで、意見が活発に出され、充実した気づきの場となります。

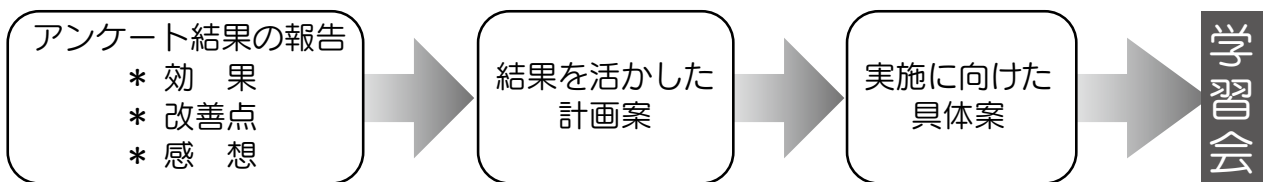
#### 【実施】

- スムーズな進行をめざして、シナリオを作成するなど工夫している。
- ワークシートは、学習者が考えを整理するための資料として活用している。
- 話し合う班は5名程度と少人数にし、話しやすい雰囲気づくりを心がけている。
- プライバシー厳守や他者を批判しないなど話し合う際のルールが共有できている。
- 実施中に学習者の様子を観察するなど、評価の視点を取り入れている。
- アンケートに、理解の程度や内容に関する項目、自由記述などを入れている。

学習会を成功させるには、全体の流れがイメージできていることが重要です。受付や挨拶、講演や討論の質疑応答などの時間配分も含めて、計画にそって進めていきます。話し合いをする場合、学習者同士の関わりによって新たな気づき生まれ、学び合った成果を発表し合う、といった振り返りの機会をもつことが大切です。学習者が、聞く・見る・話す・作る、など変化のある活動ができるよう心がけます。

#### 【実施後】

- アンケート結果を、効果があった点と改善点とに分けてまとめ、報告する。
- アンケート結果をもとに、次回の学習会に向けた計画案を作成する。



#### 〈学習者の視点を大切に〉

☆ 学習者に新たな気づきがあったか。 ☆ 学んだことが日常生活につながっているか。

## (2) 学習のねらい

- ◆ 間違っただけの捉え方や思い込み、偏見などで他者を排除していないか、日頃の自分自身の言動に潜んでいる意識について振り返る。
- ◆ 自分や身近な人に関わる出来事には敏感に反応するが、それ以外のことには他人事のように感じてしまう場合があることを認識する。
- ◆ 私たちが日常何気なく発したり聞いたりする陰口・噂話<sup>うわさ</sup>が、知らず知らずのうちに人権を侵害していることに気づく。
- ◆ 自分の偏見に気づき、自らの言動につなげていくことの大切さについて、自分の問題として考える。
- ◆ お互いを認め合い、共感し、交流することによって、人と人とのつながりや絆を深めていくことのすばらしさを認識する。

## (3) 初めて学習会を計画される方へ（40名程度の住民学習を例として）

### <話し合うポイントを決めておく>

ビデオを用いた学習会では、見ただけで終わらせることのないように、少しの時間でもよいので、それぞれの考えや感じたことを話し合い聞き合うことで、課題を共有し、深めることができるように参加型学習の手法を一部取り入れるなどの工夫が望まれます。

今回の作品では、下記ア・イ・ウ・エの4つが話し合うポイントとして考えられますが、全体の学習時間を考慮して、ポイントを絞ることが必要です。

### ア 弓枝は、どのように描かれているか、自分と照らし合わせて考える。

あなたは、弓枝にどのような気持ちを抱きましたか。共感したところや反感を持ったところは、どんなところですか。そして、自分と比べてみて、気づいたことはありますか。弓枝の言動から、日頃の自分自身を振り返りましょう。

### イ 弓枝、勇、輝の気持ちや言動に変化をもたらしたものは何かを考える。

どのようなことが、弓枝、勇、輝のそれぞれに気づきを与えたのでしょうか。草木染めをもらってからの弓枝や、ルアン夫婦が隣に来た後の弓枝・勇の様子などを振り返りながら、真の気づきを生むために大切なことは何か、考えてみましょう。

### ウ 弓枝と美里、輝と龍太の今後の関係を考える。

この作品の結末について、どう感じましたか。あなたが、美里や龍太だったら、どうでしょうか。弓枝・輝の親子と、美里・龍太の親子のそれぞれの立場から、互いの気持ちを想像してみましょう。

### エ 人と人とのつながりや絆を深めるために、自分たちにできることを考える。

自分の中にある様々な意識について、気づくことができましたか。そして、それらの意識を踏まえて、地域の中で人と人とのつながりや絆を深めていくために、どんなことが自分たちにできるか、話し合ってみましょう。

## 学習展開例

### 目 標

- 1 登場人物の言動を参考にしながら、自分の中にある思い込みや偏見などの「意識」について振り返る。
- 2 弓枝や美里の体験を他人事とせず自分自身のこととして捉えることが、日常生活における言動の変化につながることを理解する。
- 3 人と人とのつながりや絆を深めるために、自分たちにできることを考える。

学 習 活 動 (90分での例示)	学習活動を支援するポイント
<b>1 開会 (8分)</b> 班ごとに自己紹介と役割分担をする。 学習会の進め方を知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 受付で班カードを配り、班ごとに座ってもらう。 (1班5名程度)</li> <li>○ 自己紹介の中で、司会・記録・発表などの役割を決める。</li> </ul>
<b>2 「ほんとの空」を視聴する。(36分)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 話し合う方向性 (P 5) を伝えてから視聴する。</li> </ul>
<b>3 ワークシートに記入する。(8分)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分のメモとして簡単に記入することを伝える。</li> </ul>
<b>4 項目を絞って班ごとに話し合う。(20分)</b>  (1) 弓枝、勇、輝はどんな点で変わりましたか。 また、それはなぜだと思いますか。 (弓枝は、どのように描かれていますか。)  (2) 弓枝と美里、輝と龍太は、今後どうなると思いますか。  (3) 自分や周囲の人たちの、思い込みや偏見について振り返ってみましょう。人と人とのつながりや絆を深めていくために、自分たちにはどんなことができると思いますか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「共通の項目を全体で」や「班ごとに項目を決めて」など、話し合う前に内容について伝える。</li> <li>○ 各班を回りながら、支援の声かけをする。 (話し合いの内容に適切な資料を紹介するなど)</li> </ul> <p>(1) 建前でなく、本音を言い合うことが大切。            ・弓枝、勇、輝が抱く偏見            ・美里親子、外国人夫婦との関わり など</p> <p>(2) それぞれの立場から、互いの気持ちを考える。            ・弓枝と美里のラストシーンでの気持ち            ・手紙を渡す輝と受け取る龍太の気持ち など</p> <p>(3) 建設的な話し合いになるよう協力し合う。            ・思い込みや偏見について (発表できる範囲で)            ・日常生活の中で自分たちができること など</p>
<b>5 各班で出た意見を交流する。(10分)</b> (2～3班に発表してもらう)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 同じ内容が続く場合もあるため、前の班が触れなかった点を中心に発表するよう助言する。</li> </ul>
<b>6 まとめ (6分)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「弓枝や勇、輝が抱く『意識』は、私たちにも共通した部分があること」「他人事を自分自身のこととして受け止め気づくことが、言動の変化につながること」「人と人との絆を深めるために、互いを認め合い、共感し、交流することが大切であること」を確認し、まとめとする。</li> </ul>
<b>7 閉会 (2分)</b>	

※ 対象者に合わせて【ワークシート1】【ワークシート2】をご活用ください。





## ほんとの空

### ～自分の思い込みや偏見に気づいていますか？～

※ビデオ視聴後の感想を整理し、話し合いをスムーズに進めるためのメモと考え、お書きください。

1 弓枝、勇、輝は、どんな点で変わりましたか。また、それはなぜだと思いますか。

こんな点が 弓枝		こんなふうに変った
勇		
輝		



変えたものは
弓枝→
勇 →
輝 →

2 弓枝と美里、輝と龍太は、今後どうなると思いますか。

---

---

---

3 自分や周囲の人たちの、思い込みや偏見について振り返り、人と人とのつながりや絆を深めていくために、自分たちにはどんなことができるか考えてみましょう。

---

---

---

## ほんとの空

### ～自分の思い込みや偏見に気づいていますか？～

1 この作品の内容に関する以下の事柄について「そう思う」場合は○、「思わない」場合は×、「わからない」場合は△をつけて、自分の思いを確認してみましょう。

- 弓枝は、高齢者や障害のある人、外国人や同和問題などに対して偏見を持ちすぎだ。
- 弓枝が人の言葉に流されて、放射能への怖さから草木染めを捨てたことには同感できる。
- 弓枝の、美里親子を傷つけたという気づきが、日常生活にすぐ活かされるか疑問だ。
- 輝は、空オタクで変わっているので、同級生から多少いじめられてもやむを得ない。
- 輝が、龍太に写真と伝えた「ほんとの空」が何を意味しているのか、よく理解できる。
- 勇は、弓枝の良き相談役であり、人権に関するリーダーの役割を担っている。
- 美里は、弓枝がドアの前で謝っているとき、その内側で聞いていたに違いない。
- 龍太にとって輝は大切な存在だが、草木染めの件で関係は完全には修復できないだろう。
- ルアン夫婦が風習や習慣が違う日本で嫌な思いをするのは、ある程度仕方がないと思う。
- 高齢の与田や、障害のある友永のような存在が、邪魔者扱いされていると感じる。

2 あなたには、こんな思い込みや偏見はありませんか？

自分や周りの人たちを振り返ってみましょう。(可能な範囲で話し合いを)

・男は仕事、女は家庭。・今どきの若者は、苦勞を知らない。・「古い」は、暗く汚いものである。など

3 それぞれの地域で、人と人とのつながりや絆を深めていくために、自分たちにはどんなことができると思いますか。

---

---

---

## 5 参考資料等

### 1 私たちの「意識」について I

#### ① 高齢者、子ども、障害のある人に関する人権問題

内閣府「人権擁護に関する世論調査」（平成24年）によると、高齢者に関して現在どのような人権問題が起きていると思うか、という問いに対して、「高齢者が邪魔者扱いされ、つまはじきにされること」を挙げた者の割合が、全体の31.0%となっています。

また、これに続いて「病院での看護や養護施設において劣悪な処遇や虐待を受けること」（30.0%）、「家庭内での看護や介護において嫌がらせや虐待を受けること」（24.6%）となっており、高齢者に対する虐待が、人権問題として高い割合で認識されていることがわかります。

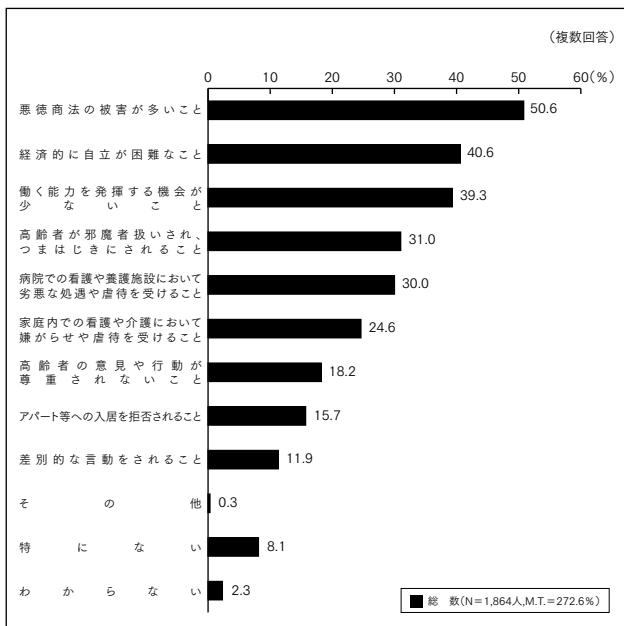
子どもに関する同様の問いに対しては、「いじめを受けること」が76.2%と最も高い割合となっており、「虐待を受けること」が61.0%でこれに続いています。いずれも現在、多くの事例が報告されていることから、大きな社会問題の一つとして認識されていることがわかります。

また、これら被害者としての視点だけでなく、「いじめ、体罰や虐待を見て見ぬふりをすること」が、これらに続いて55.8%と高い割合となっており、被害者と加害者の周囲にいる人たちの言動についても人権問題として認識されていることがわかります。

障害のある人に関する同様の問いに対しては、「就職・職場で不利な扱いを受けること」の割合が47.0%と最も高く、続いて「じろじろ見られたり、避けられたりすること」（44.7%）、「差別的な言動をされること」（39.8%）、「職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること」（35.5%）となっています。

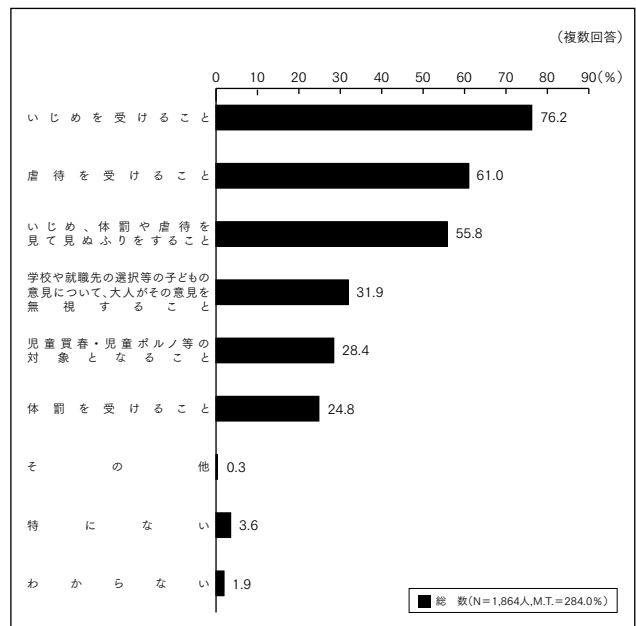
以上のとおり、高齢者に対する「邪魔者扱い」「つまはじき」「虐待」、子どもに対する「いじめ」「虐待」「見て見ぬふり」、障害のある人に対する「不利な扱い」「避けること」「差別的な言動」などの問題が起きていると思う人が多いことから、高齢者、子ども、障害のある人それぞれの排除につながる内容が、人権問題として強く認識されている、という現状がうかがえます。

高齢者に関する人権問題（複数回答）



(内閣府「人権擁護に関する世論調査」平成24年)

子どもに関する人権問題（複数回答）



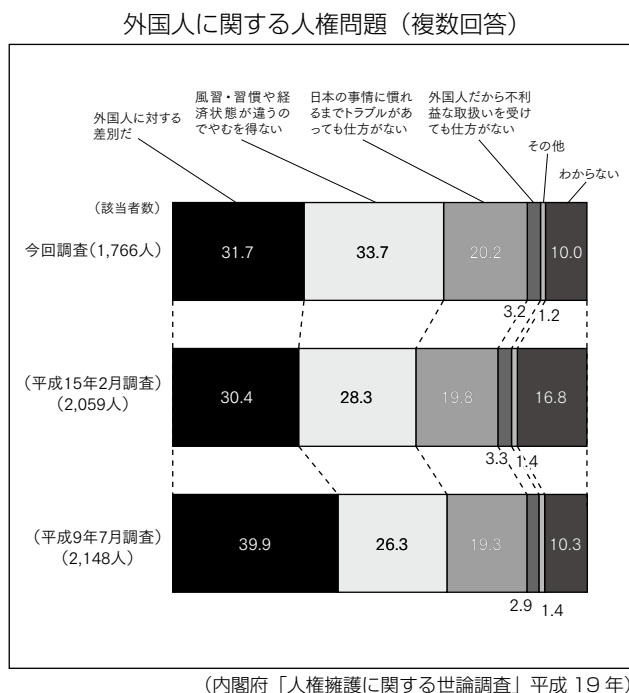
(内閣府「人権擁護に関する世論調査」平成24年)

## 私たちの「意識」について II

### ② 外国人に関する人権問題

内閣府「人権擁護に関する世論調査」(平成19年)によると、日本に居住している外国人が不利益な取扱いを受けることがあるが、このことについてどう思うか聞いたところ、「外国人に対する差別だ」を挙げた者の割合が31.7%、「風習・習慣や経済状態が違うのでやむを得ない」が33.7%、「日本の事情に慣れるまでトラブルがあっても仕方がない」が20.2%、「外国人だから不利益な取扱いを受けても仕方がない」が3.2%となっています。

また、平成9年及び平成15年の調査結果と比較すると、「外国人に対する差別だ」を挙げた者の割合が30%程度にとどまっている(平成9年:39.9%→平成15年:30.4%→平成19年:31.7%)のに対して、「風習・習慣や経済状態が違うのでやむを得ない」を挙げた者の割合が大きく増加(平成9年:26.3%→平成15年:28.3%→平成19年:33.7%)しています。「日本の事情に慣れるまでトラブルがあっても仕方がない」を挙げた者の割合も増加しており、外国人が不利益な取扱いを受けることに対して容認している状況がうかがえます。

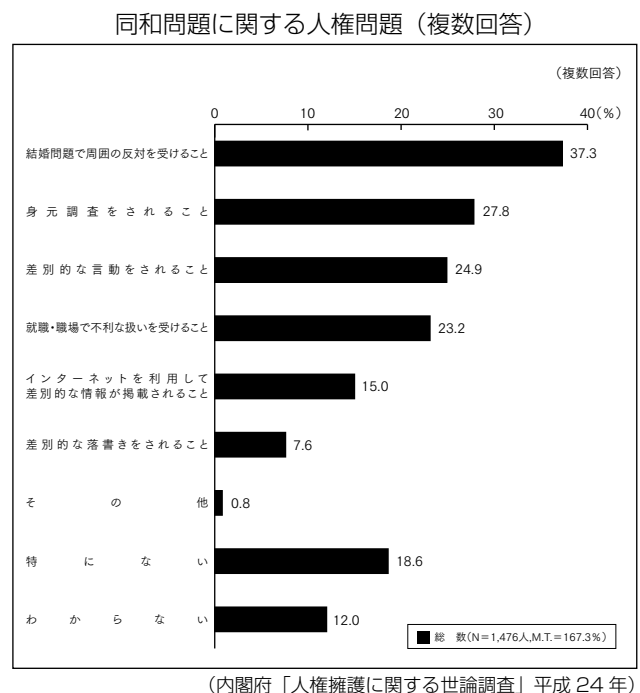


### ③ 同和問題に関する人権問題

同調査(平成24年)によると、「同和問題を知っている」とする者に、同和問題に関し現在どのような人権問題が起きていると思うか聞いたところ、「結婚問題で周囲の反対を受けること」を挙げた者の割合が37.3%、「身元調査をされること」が27.8%、「差別的な言動をされること」が24.9%、「就職・職場で不利な扱いを受けること」が23.2%となっています。また、「特にない」も18.6%と高くなっています。

兵庫県・(財)兵庫県人権啓発協会「平成20年度人権に関する県民意識調査」では、同和問題の原因や背景について、「社会全体に残る差別意識」(24.6%)、「家族、親類から教えられる偏見・差別意識」(18.5%)、「地域の人から伝えられる偏見・差別意識」(11.3%)など、人々の偏見や差別意識に関する指摘が上位を占めています。

これらの意識が、依然として発生しているインターネットや公共の場での差別的な書き込みや落書き、戸籍謄本等の不正取得、同和地区の確認を目的とした自治体等への問い合わせ、同和問題を口実にした不当な要求(えせ同和行為)など、差別を助長させる行為につながっています。



## 私たちの「意識」について Ⅲ

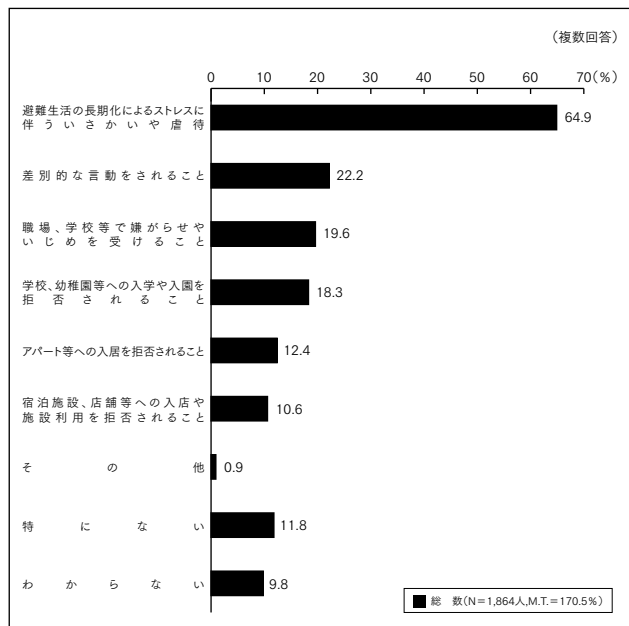
### ④ 東日本大震災に伴う人権問題

同調査(平成24年)によると、東日本大震災やそれに伴う福島第一原子力発電所の事故の発生により、現在、被災者にどのような人権問題が起きていると思うか聞いたところ、「避難生活の長期化によるストレスに伴ういさかいや虐待」を挙げた者の割合が64.9%と最も高く、「差別的な言動をされること」が22.2%、「職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること」が19.6%、「学校、幼稚園等への入学や入園を拒否されること」が18.3%となっています。

また、同調査で、人権課題について関心があるものを聞いたところ、「東日本大震災に伴う人権問題」(28.4%)となっており、「障害者」(39.4%)、「子ども」(38.1%)、「インターネットによる人権侵害」(36.0%：過去最高)、「高齢者」(34.8%)に続き上位に挙げられています。

以上のことから、東日本大震災に伴う人権問題は、全体の中でも高い関心が示されており、「いさかいや虐待」「差別的な言動」「嫌がらせやいじめ」「入園や入居、施設利用の拒否」など、排除に関わる事項が人権問題として認識されている現状がうかがえます。

東日本大震災に伴う人権問題(複数回答)



(内閣府「人権擁護に関する世論調査」平成24年)

### ⑤ インターネットによる人権侵害

同調査(平成24年)によると、インターネットによる人権侵害に関し、現在どのような問題が起きていると思うか聞いたところ、「他人を誹謗中傷する情報が掲載されること」を挙げた者の割合が57.7%と最も高く、「プライバシーに関する情報が掲載されること」(49.8%)、「出会い系サイト等犯罪を誘発する場となっていること」(42.9%)などの順となっています。

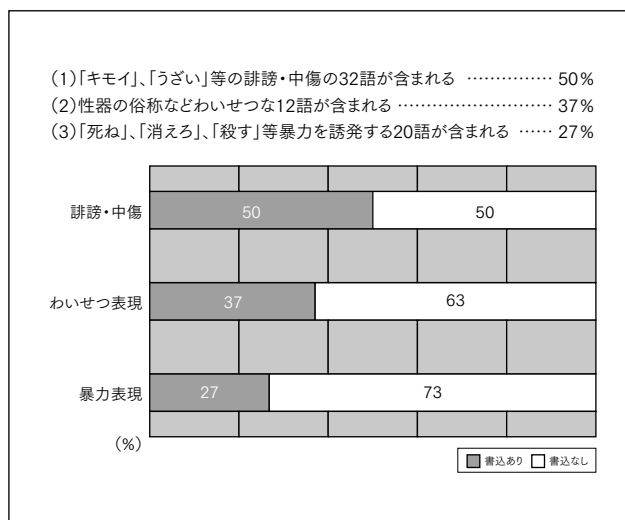
文部科学省「青少年が利用する学校非公式サイト等に関する調査」(平成20年)では、兵庫県等に地域を限定し、青少年が利用する学校非公式サイト約2000件の書き込み内容を調査しています。

その結果、「キモイ」「うざい」等の誹謗・中傷の言葉が50%に認められ、「死ね」「消えろ」等の暴力を誘発する言葉が27%に認められました。

また、誹謗・中傷の対象としては、「生徒」が61.0%と最も多く、不適切に感じた書き込み内容では、「同じ学校の生徒の悪口」が41.0%、「暴言(乱暴な言葉)」が33.3%となっています。

以上のことから、「キモイ」「うざい」「死ね」「消えろ」等の誹謗・中傷や暴力に関わる言葉が、インターネット上で他者を排除する言葉として、特に生徒間で頻繁に使用されており、不適切であると認識されていることがわかります。

青少年が利用する学校非公式サイトへの書き込み内容



(文部科学省「青少年が利用する学校非公式サイト等に関する調査」平成20年)

## 「周りと違っていいんだよ」

藤井 輝明 (医学博士)

「誰でもその人にしかない個性や魅力が必ずありますよ」と、屈託のない顔で笑う医学博士の藤井輝明さん(54)。初めての絵本「てるちゃんのかお」で、容姿を理由にいじめられた自身の子ども時代を語っている。

2歳のころ、右ほおに赤いこぶのようなものができた。海綿状血管腫という病気だった。小学校のころは「化け物がいる」「触れたら手が腐る」といじめられた。

ふさがちな心を支えてくれたのは母親だった。息子を水泳やバイオリン教室に通わせながら、自身も同じ習い事に挑戦。藤井さんは「一生懸命やって結果を残すことが、自信につながると教えてくれた」と振り返る。

40歳を過ぎたころ、小学校時代のいじめっ子と再会した。「ひどいことを言ってすまなかった。両親が働いていて寂しかった。つきついでことを言った」。ぽつりぽつりと話す彼を、藤井さんは許した。

「つらい体験だったけれど、友達も学んで成長しているな」。特にいじめた側には、長い間苦しい記憶が残ることに気が付いた。

東日本大震災で被災した子どもが県外の避難先でいじめに遭っていることに心を痛める。「放射能がうつる」などと言うのは「他県から来た異分子に対する差別です」。「周りと違っていいと思って」と言い切る。病気や障害で苦しむ人に対しても、奇異の目で見たりせず、貴重な体験を活用して励まし合う社会にしたいという。

そんな思いを伝えるために、年間約100回の講演をこなす忙しい日々。「ありのままの自分で、誇りを持って生きていこう」。強さの秘訣はここにある。

(神戸新聞朝刊〈共同通信配信〉平成23年7月26日)

## 「イケズじゃなかった」

小野 篁

JRの駅でのこと。長杖を使って電車を降りた私は、少し離れたエレベーターへ向かった。見ると一人のおばちゃんAが乗り込んで「閉」ボタンを連打している。その気迫たるや“何人たりとも入れるまい”と言わんばかり。

そこへおばちゃんB登場。強引なセールスマンよろしく、閉じかけた扉をガツと足止め。隙間から身体を押し込み、先のおばちゃんAに勝ち誇ったよ

うな笑みを送った。

「この雰囲気の中には同乗したくないよなあ」

と思い、次に乗るべく歩みを調整しかかった途端、「お兄ちゃん、焦らんとゆっくりでエエよ」

柔らかい声で呼びかけられた。何と、おばちゃんAが今度は「開」ボタンを連打してくれているのだ。

「あ、ありがとうございます!」

ゆっくりでエエと言われたが、逆に慌てて便乗させていただいた。

隅っこに小さくおさまっていると、

「お兄ちゃん、キレイな髪やねえ」

おばちゃんBが和やかな笑顔で見上げてくる。おばちゃんAも、

「ホンマ、今時分には珍しい真っ黒な毛やな」

先ほどのバトルはどこへやら。ニコニコ顔に挟まれて、ちょっと嬉しくなってきた。

(性別を見間違えられてるけど、まあいいや。お兄ちゃん通しちゃえ)

ものの数秒の出会いと別れ。と思いきや、ゴンドラを降りて改札へ向かう間も、

「荷物持たげるわ」

(いえ、携帯端末だけですから)

「そんな遠慮せんと」

(取引先の個人情報が入っているので、会社の規則で預けられないんです)

左右から競うように声が掛かる。お二方とも、すでに両手は荷物でうまっているのに…

一瞬でもA: イケズ、B: 強引という先入観をいただいた自分が恥ずかしい。根はとても親切で、気のいいおばちゃん達だった。

別れ際、ポケットいっぱいのアメちゃんを握らせてもらい、両手を振ってのお見送りを受ける。何より嬉しかったのは、最後の会話。

「杖で頑張ってるアンタを見てたら、なんや元気になってきたわ」

「いつでも声かけてや」

歩くペースが遅いから邪魔してますよねゴメンナサイ、と恐縮することも多い中、ホワッと気持ちが解れた瞬間。口に入れた飴がとろけるように、心に甘さが広がっていく。

人を傷つけることもある“ことば”だが、優しさという水を吸うと花が咲く。ちよつとの勇気でことばを発し、私も誰かに届けよう。キレイに花咲く、思い遣りの種を。

今日も元気に杖が鳴る。

(平成23年度 のじぎく文芸賞 随想部門優秀賞)

## 2 気づくことの大切さ

### 人権を身近に感じる

兵庫県・(財)兵庫県人権啓発協会「平成20年度人権に関する県民意識調査」では、人権をどのくらい身近な問題として感じているか、という問いに対して、「かなり身近に感じる」が32.4%で最も高く、「ひじょうに身近に感じる」(10.3%)と合わせた『身近に感じる層』が42.7%を占めているのに対して、「あまり身近に感じない」(19.8%)と「まったく身近に感じない」(2.8%)を合わせた『身近に感じない層』は22.6%でした。

人権を『身近に感じる層』が約4割と、全体の中では多くの割合を占めていますが、一方で「どちらとも言えない」と答えた者の割合が30.5%となっており、身近な問題として捉えられていない現状もうかがえます。

また、この結果を平成15年度の前回の調査と比較してみると、「ひじょうに身近に感じる」が3.3ポイントの減少、「かなり身近に感じる」が1.6ポイント減少し、『身近に感じる層』が4.9ポイント減少(47.6%→42.7%)しています。

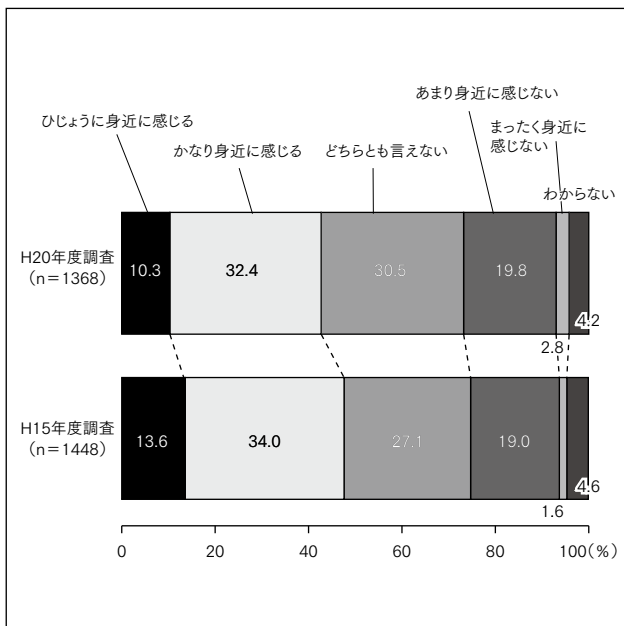
これに対して、「あまり身近に感じない」は0.8ポイントの増加、「まったく身近に感じない」は1.2ポイント増加し、『身近に感じない層』では

2.0ポイント増加(20.6%→22.6%)しており、「どちらとも言えない」の割合も3.4ポイント増加(27.1%→30.5%)しています。平成15年度調査との比較から明らかなように、「人権を身近に感じる」ことが希薄になっている現状がうかがえます。

兵庫県では、平成16年度から県内の各市町と一体となって「人権文化をすすめる県民運動」を推進しています。人権文化とは、お互いの人権を尊重し、感じたり、考えたり、行動したりすることが日常生活の中で自然に定着している有り様のことです。例えば、混んだ電車やバスの中で、お年寄りや体の不自由な人などに出会ったとき、自然に声をかけたり、席を譲る行動を取ったりすることで、決して難しいことではありません。

高齢者や子ども、障害のある人や外国人、同和問題で差別されている人や東日本大震災で避難している人たちなどに対して、いじめや虐待、邪魔者扱い等、様々な面で排除しようとする事例が数多く起こっていますが、まず第一に、「人権を身近に感じること」「気づくこと」、そして「他者の人権を自分自身のこととして感じること」が何よりも大切です。

「人権」をどのくらい身近な問題として感じているか



(兵庫県「人権に関する県民意識調査」平成20年)

平成15年度調査と平成20年度調査の比較

	平成15年度調査	平成20年度調査
身近に感じる層	47.6%	42.7% (-4.9)
身近に感じない層	20.6%	22.6% (+2.0)
どちらとも言えない	27.1%	30.5% (+3.4)

※カッコ内の変動率は前回調査との比較



「ほんとの空」より

### 3 心から理解すること

#### 「やさしくなろう」

しまむら かずお (シンガーソングライター)

やさしくなろう もっと素直になろう  
あたたかくなろう やさしくなろう

嫌われるのが 怖くて  
またひとつ 嘘をついた  
本当は淋しがり屋の ヘタなお芝居

誰も本当の自分を 分かってくれないと  
人を恨んで 唇噛んで  
泣きながら言葉 投げつけた

気がつけばいつも 自分の我がまま  
分かっているけど  
「ごめんなさい」のひと言が  
なぜか言えなくて…

やさしくなろう もっと素直になろう  
あたたかくなろう やさしくなろう

仲間はずれが 怖くて  
つい 誰かの悪口を  
心にもなく話した 自分が嫌い

みんなそれぞれ大切な  
人生を生きている  
人を愛して 人に愛されて  
幸せになるために 生まれてきた

振り向けばいつも 誰かがそばにいる  
独りぼっちじゃないのに  
「ありがとう」のひと言が  
素直に言えなくて…

やさしくなろう もっと素直になろう  
あたたかくなろう やさしくなろう

やさしくなろう もっと素直になろう  
あたたかくなろう やさしくなろう

この歌詞は、元高知市立長浜市民会館（隣保館）館長で、現在シンガーソングライターとして活躍している、しまむらかずおさんが作った「やさしくなろう」です。しまむらさんは館長時代から同和問題の啓発に取り組み、メッセージを心に届けたいと、全国500カ所以上で「やさしくなろうコンサート」を開いています。

「土佐弁に『ぼっち』という言葉があります。『ちょうど良い』という意味ですが、そこには心から理解してこそ物事の本質が見え、いい関係が生まれるという側面もある気がします。人と人が心からつながり合うために何が必要かを考えるヒントがあります」としまむらさん。「目で見える差別状況が分かっても、目には見えない心理的差別やその意識を変えることは難しい。『やさしくなろう』は、優しくできる人間を目指すのではなく、優しい人間を目指すのだという願いを込めています」と話します。

(ひょうご人権ジャーナルきずな 平成24年8月号)

しまむらさんは、著書「心のリンゴをあなたにも」（リーブル出版）の中で、優しさとは「上から下に行われるものではなく、強弱、大小、長短、貧富を問わず、段差のないフラットな立ち位置にこそ成立するもの」と語っています。

他者を排除せず、心から理解した上で自然に行動できるようになることが大切です。



「ほんとの空」より



## 4 変わる勇気

### 「震災と人権～私たちに出来ること～」

J.A.T.D. にしゃんた

(羽衣国際大学現代社会学部放送・メディア映像学科  
准教授、多民族共生人権教育センター理事)

スリランカの津波と東日本大震災に、大学の学生たちとともに関わり、被災地と向き合いました。その中で見えてきたものがあります。どのように被災された方々と関わっていき、それをどうやって長く続けるか、です。

震災と人権、この二つには共通点があります。現状をきちんと受け入れ、私たちが変わっていかなくちゃいけない、ということです。自分の考えだけで判断するのではなく、起きた現象を率直に受け入れ、私たちも変わっていきこうという勇気を持つこと、知識だけを変えるのではなく肌で感じていく。それがともに笑える世の中を創るのではないかと思います。

ともすると、この変わっていきこうとする動きを遮るような壁が出てきます。それは、心の壁、制度的な壁、言葉の壁です。心の壁は、思い込み、決め付け、過信、無関心でできてしまいます。心のスイッチを切ってしまう状態です。スイッチを切らず、無関心にならないように心がけなくてはなりません。制度的な壁は、法律、条例、ルール、システムなどから生じます。私たちがそれぞれに持っている物差しや常識もまた、壁になり得ます。制度的な壁を常に更新しなければなりません。言葉の壁もそうです。要はコミュニケーションです。単なる言葉のやり取りだけではなく、互いに感性を働かせて関わりあっていくことかと思えます。

共に笑える世の中を創ることと、三つの壁を取り払っていくこと。この二つが、今回の大震災を乗り越えるキーワードであり、それを実現することが、人権感覚に満ちた社会を創るとともに、われわれを成長させていってくれと考えています。

何をしないといけないか。それは被災地と関わって、その関わりを継続していくことであり、お互

いの違いを受け入れて変化していくことだと思います。

今、変わる勇気が求められています。われわれと違う状況に置かれている人々がいるという現象の中で、われわれが変わっていきこうとし、成長していきこうとすることです。そしてそうすることもまた、人権なのです。ともすると人権は、他者のためだけのものと捉えられがちですが、私たちが強く優しく美しく、しなやかになっていくための権利もまた人権と思っています。人権の捉え方についても、進化していかなくてはならないと思います。

((財) 人権教育啓発推進センター「アイユ」  
平成24年3月号より抜粋)

## 5 相談窓口

### ◆ 法務省が開設している人権相談

全国共通人権相談ダイヤル

(みんなの人権110番)

TEL : 0570-003-110

子どもの人権110番

TEL : 0120-007-110

女性の人権ホットライン

TEL : 0570-070-810

インターネット人権相談受付窓口

パソコンからは

<http://www.moj.go.jp/JINKEN/jinken113.html>

携帯電話からは

<http://www.jinken.go.jp/soudan/mobile/001.html>

外国人のための人権相談所

< 全国8か所の法務局・地方法務局で >

神戸：神戸地方法務局内人権相談室

(神戸市中央区波止場町1-1)

TEL : 078-393-0600

